



2020年12月2日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディコミュニケーション センター

アウディ、ダカールラリーに参戦

- 世界で最も過酷なラリーにエネルギーコンバーター付き電動パワートレインで挑戦
- アウディ ブランドが国際ラリーの舞台へ復帰
- カスタマーレーシングの活動も重要な要素として継続

(ドイツ本国発表資料)

アウディは、モータースポーツの世界における最も過酷なレース、ダカールラリーに挑戦します。アウディは、この有名なラリーに、2022年に革新的なプロトタイプで初参戦することを発表しました。このプロトタイプには、電動ドライブトレイン、高電圧バッテリー、高効率なエネルギーコンバーターを組み合わせたドライブコンセプトが初採用されます。クロスカントリーラリーへの参戦は、将来のファクトリー体制によるモータースポーツへの取り組みの先駆けとなるものです。

AUDI AG 取締役会会長 兼 テクニカルデベロップメント&プロダクトライン担当取締役のマルクス・ドゥスマン、次のように述べています。「モータースポーツへの多角的な取り組みは、アウディの事業戦略における不可欠な部分であり、今後も継続的に実施します。私たちは、国際的なトップレベルのモータースポーツにおいて、ブランドのスローガンである“Vorsprung durch Technik”（技術による先進）を示し続け、量産車向けの革新的なテクノロジーを開発したいと考えています。世界で最も過酷なラリーは、そのための完璧な舞台となるでしょう」

幅広いカテゴリーで数多くの国際的な成功を収めてきたアウディが、再びラリーの世界へと戻ってきます。ラリーは、モータースポーツにおけるブランドの成功の歴史の原点です。1981年にラリーに初参戦したアウディは、Audi quattro で革命をもたらしました。現在、フルタイム 4 輪駆動は、ラリーカーだけでなく、あらゆるカテゴリーにおける標準的なシステムとなっています。このテクノロジーは、スポーティなアウディモデルの安全性を最大限に高めます。現在、Audi e-tron モデルには電動 4WD システムが搭載されています。

アウディが、究極のコンディションの中を走るダカールラリーに挑戦するプロトタイプは、パワフルな電動ドライブトレインによって駆動されます。必要なエネルギーは高電圧バッテリーから供給され、非常に効率的な TFSI エンジンにエネルギーコンバーターとして利用することで、走行中に必要な電力を充電します。目標は、今後の 2 年間で、電動ドライブトレインとバッテリーの性能をさらに改善することです。このプロセスで得られた知識は、アウディの量産電気自動車の開発にフィードバックされます。

アウディは、ダカールラリーにこの電動ドライブコンセプトで参戦する最初の自動車メーカーであり、再びモータースポーツの世界においてパイオニアとしての役割を果たすことになります。2012 年、アウディはル・マン 24 時間レースで、ハイブリッドレーシングカーによる初勝利を収めました。Audi R18 e-tron quattro は、世界で最も重要なこの耐久レースで、3 連覇を果たしました。

2014 年以来、アウディは電気自動車によるレースシリーズ、フォーミュラ E でも成功を収めています。最初は長年のパートナーである ABT Sportsline のチームをサポートする形で、2017 年からは完全なファクトリー仕様のレースカーでフォーミュラ E に参戦しています。この 6 年間で、Team Audi Sport ABT Schaeffler (チーム アウディ スポーツ アプト シェフラー) は、フォーミュラ E 史上で最も成功

したチームとなり、12回の優勝を含む合計43回の表彰台を獲得しました。そのハイライトは、2017年に獲得したドライバーズタイトルと、ファクトリー参戦して最初のシーズンに獲得した2018年のチームタイトルです。

マルクス ドゥスマンは、次のように付け加えています。「フォーミュラ E は、アウディの変革プランと密接に関係しています。今や、アウディにとって電動車によるモビリティは、未来の夢ではなく、現実のものとなっています。」Audi e-tron は、多くの市場でベストセラーモデルとなっています。間もなく登場する Audi RS e-tron GT は、スポーティな電気自動車を先導するモデルとなるでしょう。アウディは、早ければ2025年には、電気自動車とプラグインハイブリッドが販売台数の約40%を占めると予測しています。「これが、最も過酷なモータースポーツに、アウディが電動モデルで挑戦する理由です。ダカールラリーのレギュレーションでは、搭載する技術に関して大きな自由度が認められているため、アウディにとって完璧な試験場となります。」

今後、ダカールラリーは、フォーミュラ E に代わり、アウディがファクトリー体制で参戦する舞台となります。アウディがフォーミュラ E にファクトリーチームとして参戦するのは、2021年シーズンが最後となります。アウディが開発した新しいパワートレインは、来年以降もカスタマーレーシングに供給され続けます。

カスタマーレーシングは、AUDI AG の将来のモータースポーツプログラムにおいて、引き続き2つ目の重要な柱となっています。Audi Sport のカスタマーレーシングは、今後も包括的なモデルラインナップを提供するとともに、世界中のレースに集中的なサービスを提供します。さらに、カスタマーレーシングプログラムには、Audi R8 LMS によるニュルブルクリンク 24 時間レースなどの主要な耐久レースや、インターコンチネンタルGT チャレンジなどの国際レースシリーズへの参戦も含まれています。

Audi Sport GmbH マネージングディレクターのユリウス シーバッハは、次のように述べています。「私たちは、国際的なモータースポーツシーンで、参戦可能な他の分野についても検討を行っています。そうすることで、私たちは、未来の戦略として電動化とカーボンニュートラルなモビリティに明確な焦点を当てながら、同時にモータースポーツに対するお客様のニーズにも応えていきます。そのため、新しいスポーツプロトタイプカテゴリーである LMDh に参入する準備を集中的に行っています。そのハイライトは、デイトナ 24 時間レースとル・マン 24 時間レースです。ファンの方々への最も重要なメッセージは、アウディにとってモータースポーツは引き続き重要な役割を果たすということです」

2020年12月1日から、ユリウス シーバッハは、Audi Sport GmbH のマネージングディレクターとしての職務に加えて、アウディの国際モータースポーツ活動の責任者に就任します。Audi Sport 責任者を約10年にわたって務め、2017年から2020年にはアウディ モータースポーツ代表を務めたディーター ガスは、DTM へのファクトリー参戦を無事に終了させた後に、新たな仕事に専念する予定です。